

2026年4月  
南山大学FD・SD委員会  
委員長 安藤 史江

## 2025年度「学生による授業評価」のまとめの刊行にあたって

南山大学では、1997年度以降、各教員が授業方法の改善点を見出し、大学全体の教育の質向上を図ることを目的に、全学で「学生による授業評価」を実施している。

その後、2017年度のクォーター制の導入や瀬戸キャンパスの名古屋キャンパスへの統合、2020年度および2021年度の新型コロナウイルス感染症流行への対応としてのオンライン授業やハイブリッド授業の導入、そして2022年度以降の対面授業への回帰など、大きな変化を経験しながら、その方法や内容の改善に努めてきた。たとえば、2017年度の評価方法をマークシートへの記入からウェブ入力方式への切り替えや、2020年度の授業評価を行う対象科目数の見直し（各クォーター1教員1科目から各学期1教員1科目に削減）、2020年度Q3/Q4からの、オンライン授業やハイブリッド授業という実態に合わせた設問項目の変更、そして、大幅な見直し・精緻化に基づく、2025年度からの新たな設問項目の実施などである。また、2025年度には「学生による授業評価」における学生から授業担当者への誹謗中傷対策についても検討され、2026年度より評価フォームの改善が試みられることになった。

「学生による授業評価」に関する基本的な情報は、「南山大学 教学企画課」の以下のホームページ (<https://office.nanzan-u.ac.jp/kyogaku/jugyohyoka/>) に記載されている。具体的には、「学生による授業評価 結果の概要」および「学生による授業評価のまとめ」の大きく二項目に分かれており、設問項目や各種集計は前者にて、また、各科目に関するデータおよび担当者による報告書は後者にて確認することができる。

### 1. 授業評価の実施方法

#### ① 対象科目各学期について

1教員につき1科目が選択され、第1・第2クォーターには433科目、第3・第4クォーターには442科目が、それぞれ授業評価の対象となった。

#### ② 設問項目

設問項目は以下の通りである。設問1と2は学生の授業参加を問う項目、設問3と4はシラバスと実際の授業との整合性を問う項目、設問5～11は教員の授業運営や授業全体に関して問う項目となっている。シラバスに関する設問3と4を新設し、設問5と設問10をこれまでの表現を修正して用意する一方で、授業の開始・終了時間の遵守などをはじめとする常に高い評価が得られているものや、他の設問項目と重なる内容のもの、計5項目を

削除した。その結果、授業評価としては、量的な測定方法による設問項目計11項目（昨年度までは合計14項目）と、3つの自由記述項目（この授業のよかった点、改善点や困ったこと、設備等に対する要望）で回答を求めている。

なお、量的な測定方法による設問項目に関しては、5件法を用い、最も当てはまるものを1つ選択する選択式で実施した。

設問1：この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか。

設問2：受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか。

設問3：この授業はシラバス（講義概要）に沿って行われましたか。

設問4：授業内容はシラバスに掲げられた到達目標に適切に関連づけられていましたか。

設問5：毎回の授業の構成や進行速度は適切なものでしたか。

設問6：教員は学生の理解度に配慮し、また、教科書、板書、配布資料、視聴覚教材、課題、実技などを効果的に使って適切に授業を進めましたか。

設問7：私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げになる行為に対して、適切な対処がされてきましたか。

設問8：学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や授業時間外の自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供はありましたか。

設問9：質問や相談の機会が、十分に設けられていましたか、あるいは、課題、実習等に対する事前・事後指導は十分でしたか。

設問10：この授業において、到達目標に掲げられた力がついてきていると感じますか。

設問11：全体として、あなたはこの授業に満足しましたか。

### ③ 実施手順

授業評価の実施はウェブ入力によって行われる。回答は匿名化して処理される。学生は、各担当教員の指示により授業時間内外に各自のスマートフォン等を使って PORTA にログインして回答する。各担当教員には、授業評価の回収率を高めるため、「回答方法の指示」として用意された文書を読み上げて、授業評価実施の目的（教育の質の向上）や匿名性であることなどを、学生に対して丁寧に説明することを求めた。特に、大人数授業の担当教員には、FD委員会から事前に実施に関する依頼をし、回収率の向上に努めた。

なお、授業時間にスマートフォン等を携帯していない等、回答ができない学生は、授業終了後に学内または自宅 PC 等を利用して回答することが可能である。

### ④ 実施・集計日程

以下の日程で実施・集計を行った。春学期と秋学期に分けて提示する。このほか、各クォーターにおいて、FD委員会による自由記述の閲覧および結果の分析・検討を行っている。

<春学期（第1・第2クォーター）>

	第1クォーター	第2クォーター
授業評価の案内	2025年5月2日	2025年7月3日
授業評価の実施	2025年5月16日～29日	2025年7月14日～25日
教員への集計結果の通知	2025年6月4日	2025年7月31日
教員からの自己点検・評価報告書の提出	2025年8月21日	

<秋学期（第3・第4クォーター）>

	第3クォーター	第4クォーター
授業評価の案内	2025年10月14日	2025年12月18日
授業評価の実施	2025年10月24日 ～11月11日	2026年1月5日～24日
教員への集計結果の通知	2025年11月17日	2026年1月29日
教員からの自己点検・評価報告書の提出	2026年2月13日	

※「『学生による授業評価』のまとめ」の発行は、これまで春学期と秋学期に分けて行われていたが、2025年度分より、翌年度（本年の場合、2026年）6月ごろにまとめてWebに掲載されることになった。

2. 集計結果の概要

① 回答率について

回答率は、登録人数のうち、実際の回答者の割合である。表1は、2025年度の各クォーターの回答率を全体および授業登録者数（授業規模）の違いで比較したものである。比較のため、2024年度分もあわせて掲載している。また、その結果を折れ線グラフで表したのが、図1である。

表1 回答率（比較のため、2024年度分も掲載）

	2024Q1	2024Q2	2024Q3	2024Q4	2025Q1	2025Q2	2025Q3	2025Q4
全体	49.85%	48.27%	44.10%	45.86%	53.66%	45.85%	45.35%	42.85%
30名以下	70.80%	67.60%	60.76%	60.86%	74.46%	65.74%	62.07%	60.31%
31～60名	59.19%	58.02%	51.03%	55.01%	62.58%	57.84%	52.79%	55.13%
61～120名	49.29%	52.06%	40.53%	39.67%	52.16%	49.29%	43.18%	43.59%
121～240名	47.22%	42.28%	40.98%	43.13%	60.68%	39.38%	42.45%	38.84%
241名以上	43.34%	44.39%	39.45%	42.12%	47.40%	42.15%	40.21%	33.89%

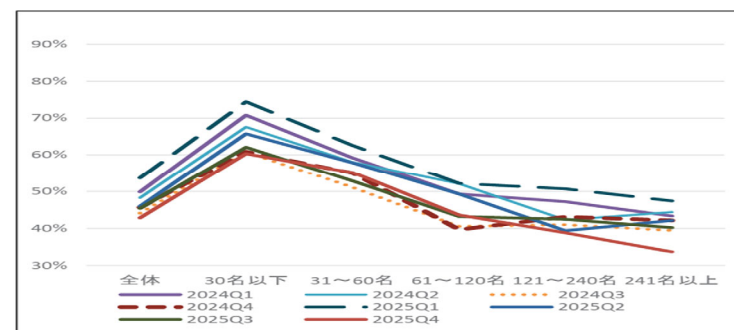


図1 回答率の推移（2024年度～2025年度）

表1および図1より、2025年度の第1クォーターの回答率は昨年度と比較して高かったが、第2クォーターから第4クォーターにかけては、昨年度より回答率が低かったことがわかる。特に、2025年度の第4クォーターでは、241名以上の授業に対する回答率が過去の回答率を大きく下回り、30%の前半にまで落ち込んでいることが確認できる。この点については、今後、注視を要するものと考えられる。ただし、2024年度も授業規模は61名～120名と異なるが、第4クォーターにて回答率が低下しており、第4クォーターに特有の何らかの事情が存在する可能性も考えられる。

また、全体に授業規模が大きくなるにつれ、回答率は下がる傾向がある。2025年度は授業評価を実行する際に、大人数授業の各担当者にその学部選出のFD委員を通じて、学生への授業評価に対する回答呼びかけを意識的に実施することを依頼したが、その効果がまだ十分には表れていないように見受けられる。引き続き、工夫を行い、回答率の確保に努めていく必要がある。

② 報告書の提出について

授業評価を行った後に、各担当教員にその結果を踏まえて自己点検・評価報告書の作成・提出を依頼している。報告書の提出はこれまでほぼ100%であり、そうでない場合でも未提出者は1名程度であったが、2025年度はすべてのクォーターにおいて、未提出者が1%前後生じた。そのほとんどが、「意志ある未提出者」であり、授業評価そのもの、もしくは運営方法に対する何らかの意見・疑問を持つ者であった。

こうした状況の変化を受けて、2025年度は「学生による授業評価」の誹謗中傷対策について時間をかけて検討を重ね、ウェブ入力フォームを改善し、2026年度から新たなフォームでの運用を行うことが決定された。この変化によって報告書の提出状況に改善を望めるのか、やはり注視していく必要がある。

### ③ 評定平均値について

調査対象全体について整理した表2をみると、2024年度に引き続き、2025年度も年間を通して4.5前後の高い値を獲得していることから、各授業に対して学生が高く評価していることがわかる。

前述のように、2025年4月から設問項目を新たにしたこと、表3では各設問項目に対する2025年度の評定平均のみを取り出している。こちらも、最も低いものでも4.07（ただし、これは学生の授業参加を問うものであり、教員の授業運営もしくは授業そのものに対しては4.32が最低点となる）、最も高いものでは4.69と軒並み高い数値が確認される。これはすべての授業担当者のさまざまな努力と工夫の現れと捉えることができるだろう。

2025年度は回収率が必ずしも高くなかったため、回収率が例年並み、もしくは例年以上となったときでも、この評定平均値の水準を維持できるよう、今後も授業担当者の継続的な努力が期待される。

表2 全体の評価平均値（2024年度～2025年度）

年度・学期	2024Q1	2024Q2	2024Q3	2024Q4	2025Q1	2025Q2	2025Q3	2025Q4
全体	4.48	4.54	4.51	4.51	4.52	4.48	4.52	4.53

表3 各質問項目の評定平均値

	設問項目 (2025.4～)	2025			
		Q1	Q2	Q3	Q4
1	授業への興味	4.07	4.13	4.08	4.10
2	授業への取り組み・自主的な学習の実行	4.22	4.20	4.21	4.18
3	シラバスに沿って実施	4.69	4.65	4.67	4.68
4	シラバスの有用性	4.66	4.61	4.65	4.66
5	構成や速度が適切	4.58	4.52	4.57	4.61
6	理解度への配慮・板書、配付資料	4.56	4.52	4.57	4.60
7	妨げ行為への対処	4.53	4.47	4.52	4.53
8	意欲を引き出す工夫・自主的な学習の指導	4.36	4.34	4.37	4.40
9	質問や相談の機会	4.48	4.47	4.50	4.51
10	知識・理解の深まり	4.33	4.32	4.34	4.37
11	全体としての満足度	4.45	4.40	4.44	4.47

以上